

令和2年10月 上市町教育委員会 定例会

当面の教育課題について 議事録

(教育長)

今回から、町の当面の教育課題について幾つかのテーマを決め、協議していきたい。資料にある「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」をベースに、これどのように読み解くかというものと考えている。他市町村での、統廃合に取り掛かる前と後についてもしっかりと見てみる必要がある。本日は、直近で変化が起きている「ICT活用」と「外国語教育」についてご意見をいただきたい。

[ICT活用]

(教育長)

ICTについては、どうやって有効なものとしていくのかが課題と考えている。

(委員)

子どもたちの実態を知るうえで、補助的に活用することが望ましく、児童数が多い学校での意見交換などに有用、効果が出るのではないか。

コロナ禍での子どもたちの実態はどうなのか。

(委員)

ICTに関連して考えると、PCは毎年新しいモデルが出て、2~3年すると機器も古くなる。ここに能力、経済力をかけるのはとても負担になるのではないかと思う。ただ、コロナ禍で人と触れ合うことが出来ない中、子どもたちが通信で人と関わることはマイナスだけではないと感じた。

今は運動不足、関り不足が一番心配である。外に出ての学習（川の調査などしていたようだ）だけでも満たされている。

(委員)

教員にはこれまでの仕事にプラスしてICT活用が出てくる。事前準備が相当必要であり、負担に思っている教員が多いのではないか。慌てずにスマールステップで進めるべきである。

ICT以前に、コロナ禍の中での子どもたちへの対応として、先ずは精神面、体力面を補っていくことが大切である。

ICT活用に関しては、教員の実態調査をしっかりと行ってから、対応すべきである。

(教育長)

教員の力量という面でも、色々と課題があると考えている。

(委員)

現場としてものすごく負担と不安を感じている。育休取得の先生はついていけなくなる。

今、何を大切にしなければいけないのか。子どもたちも不安と戦っている中で、見失っていないのか。

リモートだと一斉にできないことも多々ある。何を優先順位としてやるのか、教える側がしっかりとしないといけない。

特色よりも人としてどうかということを、先ずは教えるべきなのではないか。

ICTは現場の先生が気持ちよく使えるようになればいいと思う。

(教育長)

子どもたちには地に足をつけてやってもらいたいと思っている。基本的なことが出来ていない子どもがデジタルを出来るわけがない。取り入れられている色々なものが未消化になっている。

ICTのメリットを、上市なりにどういう風に使っていくのかを考えていかなければならない。

(委員)

ICTをコミュニケーションツールとして、相談など教員と子どもの距離感が縮まるものが必要だと思う。

(教育長)

いごこちアンケートなど、家に持ち帰って記入するものなどへの活用を考えたい。

(委員)

若い教員が多く、その相談体制が整えていくだけでも大変なこと。その中でICTが加わることによりどうなるのか、とても心配である。

[外国語教育]

(教育長)

平成31年度全国学習状況調査における中学校での学習への関心度について、英語が低くなっている。町内のほとんどの小学校が単級であり、中学校の進学した時点でのストレスの緩和、学級の人数も関係してくる。

(委員)

小学校での外国語の授業化については、先生方に抵抗感がある。専門の方からの指導により、子どもたちは安心感があると思う。

(委員)

少しでもいいので、各校の雰囲気を見たいと思う。中学1年生のカバンの中身が軽い。置き勉が多い。落ち着きや学習習慣がどうかと思う。机上の空論ではいけない。

(委員)

学力イコール、コミュニケーションができるとなるのか。アニメーションや音楽から学ぶなど、質の問題、教え方の中で楽しく学べればと思う。

(委員)

使うことで楽しく思う。興味を示すものを活用する。使えることに喜びがある。

(委員)

自分は音楽がきっかけで外国語を学びたいと思った。動機は興味や関心からなのではな
いか。文部科学省の文書を見ると、外国語教育の目的は経済活動が主と感じてしまう。

(教育長)

質的にしっかりとしたものを提供できるかが非常に大きい。自分でやってみようという
ことがいちばん大事である。